



GNOSIS CVD カラー:ブラッシュド



↑ディープコンケープなディッシュというだけでもレアだが、そこにアシンメトリーなひねり形状まで採用。2ピースでインセットの自由度も高く、リムを稼げるから迫力も表現可

WORK GNOSIS CVX&CVD

シリーズ初ヒネリ、初ディッシュ
コンケープディスクを強調する
2つのツイステッドデザイン

アメ鍛風味なビレット感を、鑄造製法を用いながら
マッシブかつ精悍なデザインで追求してきたグノーシス。
そこへコンケープという武器を携えたCVシリーズに
ふたつのツイステッドデザインが今年、追加された。

問●ワーク TEL:06・6746・2859 <https://www.work-wheels.co.jp>
車向●マッキナ TEL:072・446・3733 <http://www.macchina-style.com>
写真●藤井 修 文●酒井賢次

SIZE&PRICE

GNOSIS CVX

7.5J×19インチ¥81,000～12.5J×21インチ¥155,520

カラー:マットブラック、マットシルバー、ブラッシュド、コンボジットバフブラッシュド、バフフィニッシュ

PCD/H:5/100、5/112、5/114.3、5/120

GNOSIS CVD

8.0J×20インチ¥92,880～11.5J×21インチ¥151,200

カラー:マットブラック、マットシルバー、ブラッシュド、コンボジットバフブラッシュド

PCD/H:5/100、5/112、5/114.3、5/120



GNOSIS CVX カラー:コンボジットバフブラッシュド

↑CVシリーズでもトップクラスのコンケープ傾斜角を実現。ツインスポークにもメッシュにも見えるアシンメトリーな造形も特徴で、三段階の曲線で描いた開口部がひねり感絶大

MASERATI QUATTROPORTE S

WHEEL:F21×9.0・18 R21×10.5・12 TIRE:F245/35-21 R285/30-21



CVXの独創形状をトレースしたのがCVD

↑2本並べるとよく分かるが、実はCVD(左)の造形は、CVX(右)のスポーク間開口部形状のみを残し、窓を埋めた状態。CVXの躍動感をトレースしている、激レアな双子モデルなのだ

い。ツイストであってもやはり強さや鋭さがなければ、ハイパフォーマンスモデルの相棒は務まらないのだ。その点、さすがはグノーシス。CVXではエッジをピンピンに効かせたツインスポークを、サブスポークと連動させることで、セクシーにひねる。CVDではディッシュスタイルを採用しながら、鋭角な刃物でスパットと切り落としたかのような独創的開口部を生み出し、そこでひねる。鍛造感が強く、曲線基調のひねりでありながら一見した印象は実に直線的で、だから切れ味が濃厚なのだ。もちろんそこには、CVシリーズ伝統のディープコンケープが果たす役割も大きい。キレがあつて立体的で、力強くしかも艶もある。単純なツイストではない。品とチカラを備えた、オトナのツイストである。

いま、世界的にも注目を集めている造形と言えば、ツイスト。静止状態でも力強く回転する様を想像させてくれるそのデザインは、欧州自動車メーカーたちが純正ホイールデザインに取り入れているほどで、そのトレンドの波はまさにグローバルなものといった情勢になりつつある。が、ツイストでありながらひねりが、ひねることに重きを置くあまり、切れ味感や鋭さが影を潜め、やわらかな表情になってしまふという問題。それがNGというわけではもちろんないが、例えばこのクアトロポルテのように、妖艶で曲線基調なシルエットでありながらも明らかにスポーティなラグジュアリーサルーンに合わせるには、やわらかなだけのツイストでは躍動や精悍が、物足りない。

オープンメッシュなCVXとエッジディッシュなCVD。